

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	デイサービスACT（放課後等デイサービス）		公表日	2026年 3月 11日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	子どもが落ち着く部屋を確保することや活動は子どもがグループに別れています。	子どもが感覚を入れることや他害・自傷をする子が多く、一つの部屋で過ごすことは安全・安心に過ごすことが難しい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	職員の募集と子どもの出欠状況に応じて、充実した活動を試行錯誤しています。	職員の確保は適切であるが、子どもの安心・安全を守ることが精一杯の時があります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	ケース・記録等でPDCAサイクルをシステム化します。	職員への周知が足りません。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			学年会を計画的に行うことやその日のケースで振り返り、日々のとりくみにつなげます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2		状況によっては他の職員に入ってもらい、評価検討をします。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	引き続き、研修の機会を作ることと職員が学びたいことからの研修参加を促します。	研修等の機会はあるが、日程等が合わないことや任意のため、参加への位置づけが難しいです。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	2	記録、ケース等で子どものアセスメントを行い、そこから必要な支援を検討します。	子どもの姿から対応は悩みます。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			その日の振り返り等、職員間で情報共有しながら行います。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	日々、短縮授業、長期休み等、活動に時間や季節に応じてプログラム内容を工夫しています。	子どもによって学校後の様子が異なるため、子どもの状況に応じてプログラムを検討する必要があります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	携帯のライン、ノート、ホワイトボードを活用し、基本的な情報共有を行っています。	出勤時間が異なるため、情報共有が難しいです。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	携帯のライン、ノート、ホワイトボードを活用し、基本的な情報共有を行っています。	出勤時間が異なるため、情報共有が難しいです。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7				
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7				
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	ガイドラインを職員に周知し、理解を深めます。	職員が放課後等デイサービスガイドラインの内容を知らなかった。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6	1	具体物、写真カードで自己選択し、おやつ・活動を子どもが決めています。		
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1	困難ケースから、相談支援に連絡し、学校・他事業所と積極的に話、子ども理解や日々のとりくみにいかしています。		

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	必要に応じて、関係者が集まり、情報共有を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	機会を設けている。必要に応じて、助言や研修機会の連携を図ります。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	同法人との学童クラブとの交流を検討することや職員が間に入り、地域の子どもの関わりを広げます。	公園で交流の機会があっても、子ども同士の関わりが難しいことがあります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	積極的に参加しています。	職員には参加していることを周知します。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	子ども・保護者の姿から、必要に応じて両親懇談を行い、一緒に支援を検討します。	子どもによって、思春期の悩みや子どもが大きくなり、保護者の関わりでは活動が難しいことがあります。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		保護者からの相談は送迎時、電話連絡、家庭訪問、懇談等で丁寧に対応しています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	引き続き、学習会や親子行事を企画します。同法人が行っている兄弟プログラムの情報提供を行います。	父母会はありませんが、交流会や親子行事を実施しています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		子どもや保護者からの苦情を教訓にし、迅速に対応しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		携帯のライン、ショートメール、きずなねっとを使用し、連絡、活動内容を丁寧に伝えていきます。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	社会館バザーで出店し、地域の方との交流を図っています。	法人としては行っているが、あまり機会としていません。引き続き、法人のイベントに出店することで交流の場を設けていきます。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	職員間で周知をし、訓練等を計画的に行い、内容の検討を行います。	訓練を定期的に行い、内容の検討が必要です。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	2	訓練を年間で計画します。	訓練を定期的に行います。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		計画は作成してあるので、職員に周知し、行っていきます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		きずなネットや懇談会で必要なことを周知します。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		研修を行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				